日、不動明王の鎮座120(渋谷真之住職)で3月2(渋谷真と住職)で3月2

年を記念して蘇民祭が行

麻袋を奪

い合う。

裸男たちが、護符の入つ

が静かな山里に響き渡る。

ヤツソ

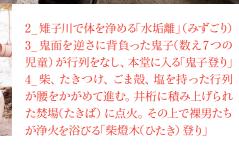
一」の掛け声

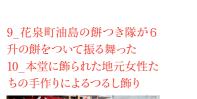
-つた雪深い田っから約50~



1,5,6,7_鬼子が本堂に戻ると、袋出しと呼ばれ る男たち数人が蘇民袋を抱えて外へ出て、いよ いよ争奪戦が始まる。小間木と呼ばれる疫病の 護符が入った蘇民袋が小刀で裂かれ、中の小 間木がこぼれ落ちる。集った男女はその小間木 を拾ってお守りとする。裸の男たちはさらに空に なった袋の争奪戦を繰り広げ、境内の外になだ 夫さんが今年の取主になった









11_長徳寺の渋谷真之住職 12_長徳寺不動尊精進講本部 の伊藤初男本部長 13_名取市から訪れた齊藤外二



8 蘇民袋争奪戦に参加した男たち。前列左から3 位に入った地元藤沢町の畠山克宏さん、取主となっ た奥州市の石川光夫さん、準取主の畠山真さんは 紫波町から参加

> の人たちと交流することで高齢化が進む中、他の地域 保呂羽を元気にしていきた い」と前を見る。

藤外二さん(64)、 気で迫力があった。春に向活は聞いていた。すごい熱 元気をもら ん(59)夫妻は「蘇民祭復 もつと頑張ろうという った」と話して あき子さ

餅をついて振る舞った。は、花泉町油島の「餅つきは、花泉町油島の「餅つきてぶりに開帳された。同日年ぶりに開帳された。同日のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、一番のでは、 満昌寺から不動尊を譲り受蘇民祭は、花泉町油島の は鎮座1 けた1894 (明治27) に始まったとされる。 20年を記念し 今年 年

どころ。寺を拠点にさまざ

まな活動が繰り広げられ

地区民が出入り

するより

おり

本堂には地元の

つながるような祭を続けたせた。今後も地域おこしに助け合いながら祭を成功さ すごいパワーだんの思いが一つ い。にぎわいがないところないところににぎわいはな の伊藤初男本部長は「祭のう。同寺不動尊精進講本部 「連帯意識が希薄になって に発展はない」と言い切り、 いる今、老若男女が互い 渋谷住職は「 だ」とねぎら つになった。 という皆さ 120年祭 に

||城県名取市から訪れた齊実家の母親から誘われて

い」と来年を見据える。 同寺は、日常的に保呂羽

取主は奥州市水沢区の石川光夫さん(36)。黒石寺蘇川光夫さん(36)。黒石寺蘇上になり、うれしい」とにったは「120年の節目に取主になり、うれしい」とにったり。準取主の畠山真さん(35)=紫波町=は「小さい えられた」と感謝し、「少子人に支えられ、この日を迎講本部青年部長。「多くの は主催した同寺不動尊精進と期待を込める。3位の畠山克宏さん(45)=藤沢町=山克宏さん(45)=藤沢町=山克宏さん(45)=藤沢町= リ、こ。 つた雪深い田んぼで決着 19 I-Style I-Style 18

巡って争奪戦を繰り広げ

をぶつけ合いながら境内を

加。下帯姿の男たちは、 や京都などから46人が参 り) には、地元のほか東京

れた蘇民袋争奪戦(袋ねじ保存団体の協力を得て行わ

の胡四王神社の各蘇民祭の奥州市の黒石寺や花巻市

集落なのに、こんなに大勢

震災復興などを願った。

れ、無病息災、

五穀豊穣、